

三重県における赤十字活動の新しい 拠点が令和6年春に誕生します



災害救護活動拠点として必要な機能

- 1 災害対策本部
- 2 宿泊スペース (80人分)
- 3 災害救護用車庫
- 4 救援物資倉庫
- 5 災害対策トイレ
・マンホールトイレ
・仮設トイレスペース
- 6 シャワールーム
- 7 夜間屋外活動用
投光器
- 8 ピロティー体の
屋外活動スペース
- 9 車両駐車スペース

災害時

01 どのような災害であっても災害救護活動拠点として 県民からの期待に応えられる施設を目指して

■ 日赤の国内救護活動と近年の災害救護

近年、国内における自然災害は、頻発化・激甚化・広域化しています。日赤の国内救護活動は、災害発生初期から避難所生活まで広範囲に及びます。災害が発生すると、救護班等を派遣し、救護所の設置、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動を行うほか、被災地における病院支援、そして避難者の健康支援等、多岐にわたる救護活動を行っています。また、毛布やタオルケット、生活に必要な日用品のセット等の救援物資を被災地に届けます。

大規模災害の被災県支部には、災害の規模に応じて全国91の赤十字病院から常に5～10班程度の医療救護班が2泊3日の行程で切れ目なく派遣され、救護活動を行います。

〈近年の救護活動の実績〉

発災年	救護実績	医療救護班等の派遣数
平成23年	東日本大震災	894班 6,492人
平成28年	熊本地震災害	207班 1,689人、こころのケアチーム 149人
平成30年	平成30年7月豪雨災害	64班、こころのケアチーム 38班、災害医療コーディネーターチーム 19班
令和2年	令和2年7月豪雨災害	54班 297人、災害医療コーディネーターチーム 26班



(災害対策本部)



(東日本大震災)



(被災現場での救護活動)



(避難所での診療)



(救援物資の配布)

■ 現状施設の老朽化

三重県支部が入居しているビルは建築後50年以上（昭和42年築）が経過し、老朽化に加え、大規模災害時の拠点として必要な機能・広さが不足しています。



(三重県支部社屋)

■ 災害救護支援センター機能の強化

三重県が大規模災害で被災した際、災害救護活動の拠点として、全国から参集する救護班要員の一時休憩、資機材の補充、情報収集・調整の機能など災害救護支援センターの役割・機能を備えた施設を目指します。



(大会議室の設え)



(ホワイトボード仕様移動間仕切壁)



(天井レス/設備ユニット)



(情報展示・情報発信スペース)

災害時に速やかに活動を開始できる工夫

- 連続3日間稼働が可能な自家発電機を設置
- 受水槽は耐震性貯水槽と雨水貯留槽により3日分を確保
- 電力、生活水などのインフラの多重化
- 衛星電話、業務用無線、アマチュア無線など情報通信の多重化
- 救援物資倉庫、災害救護用車庫、大会議室は直天井とし、天井落下による車両や資機材、救援物資等の破損や人員の負傷を防止

平常時

02 関係機関との連携・協働モデルとなる施設を目指して

近年の救護活動は、多くの防災関係機関が相互に連携を深めることで、被災地の様々なニーズや長期間の救護に対応します。平時から三重県や市町（地区・分区）、DMAT、ボランティア等と連携し、協議や訓練・研修を重ね、発災時に必要な連携・協働が可能な赤十字施設を目指します。

■ 行政機関との連携

県地域防災計画で示された日赤の役割を迅速、的確に果たすため、平時から県や市町等との災害対応能力の連携を図ります。また、日赤災害医療コーディネーターチームを活用し、県との円滑な連携を図ります。



(三重県防災訓練)

■ DMATとの連携

48時間以内の急性期を中心に活動するDMAT*と、避難所を中心に慢性期まで活動を続ける日赤救護班との連携促進を図ります。



(三重県DMAT訓練)

■ 地域コミュニティとの連携

各種講習会・防災セミナー等を通して、地域防災力向上と、地域コミュニティの活性化につながる新たな拠点となるよう機能の充実に努めます。



(健康生活支援講習)

*Disaster Medical Assistance Team (災害医療派遣チーム)の略で、大震災および航空機・列車事故といった災害時、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム。全国の災害拠点病院（厚労省指定）から派遣される。

03 県民から愛され、親しまれる施設を目指して
04 平時から県民に開かれた施設を目指して

休日に市民が集い憩う中勢グリーンパークと、利便性に優れた位置にある環境を活かして、隣接する三重県赤十字血液センターと共に、県民から愛され、親しまれる施設を目指します。

防災・減災情報を展示するスペースを整備し、地域の防災意識の向上に貢献します。



(救急法の普及)



(炊き出し訓練)



(中勢グリーンパーク)

- 防災情報の発信や防災・減災教育の研修施設
- 炊き出し訓練、自治会を対象とする避難所運営の研修
- 支部での救護活動を支援するボランティアの研修施設
- 青少年赤十字加盟校をはじめ、子ども達の社会見学施設
- 公園を利用した赤十字イベントの開催
- けがや病気の正しい知識と技術を習得する講習会場



(防災・減災セミナー)

